

新入部員必見！

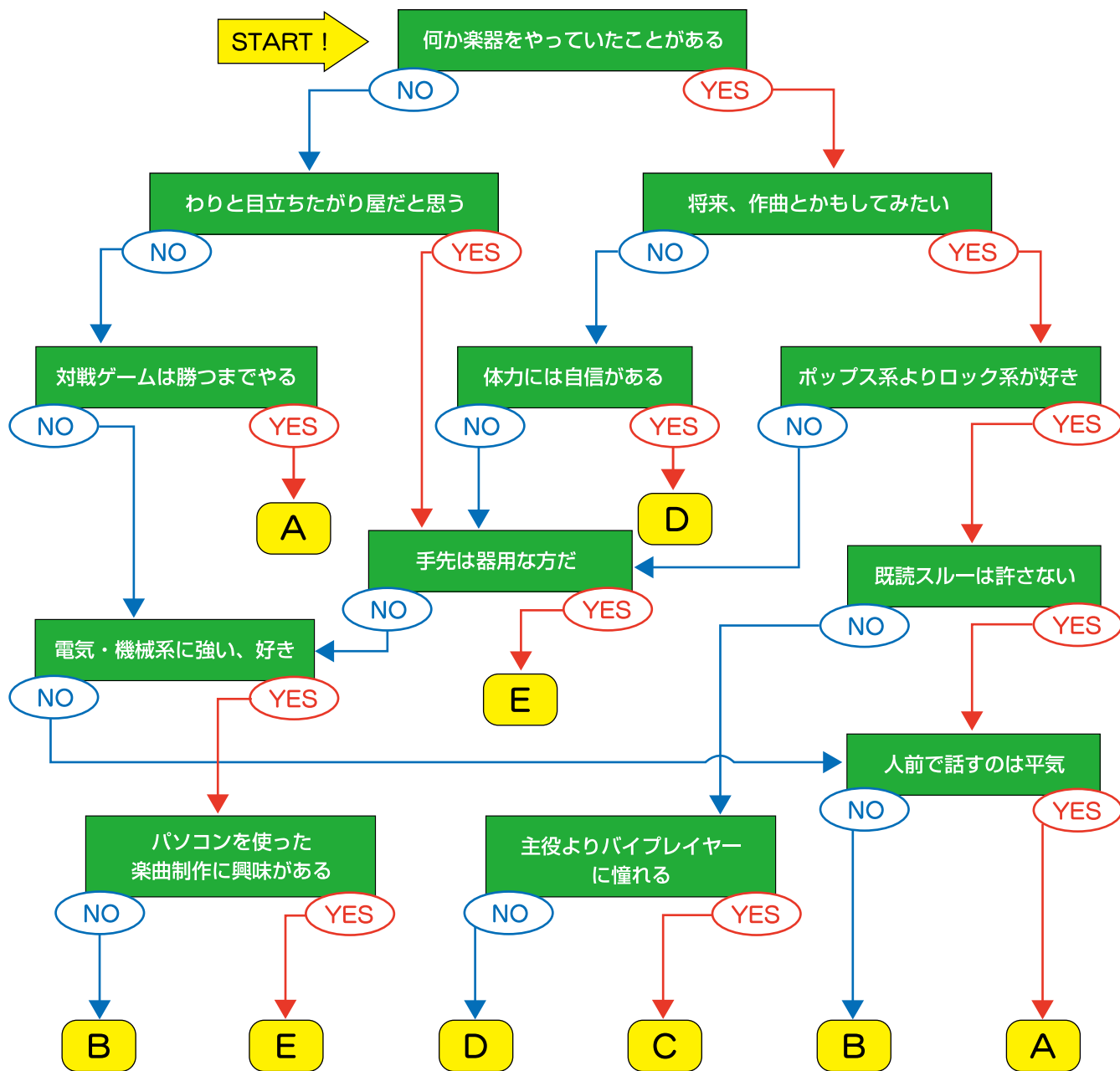
楽器の魅力と 役割を知ろう！

軽音楽部に入部したら、まず自分の担当パート選びから始まります。最初から「ギターがやりたい」とか「バンドのボーカルに憧れていました」という人もいますが、中には「どのパートを選べば良いかわからない」「自分にはどのパートが向いてるんだろう…」なんて迷っている人もいるのではないのでしょうか。パートごとにその魅力や大まかな役割を書き出してみたので、パート選びの参考にしてみてください！



パート診断マッチングチャート

まだやりたい楽器パートが決まっていない！というキミ。実は人の性格と担当パートは意外と密接な関係にあります。下の Yes / No チャートで自分に向いている（かもしれない）パートを探ってみよう。でもこれは絶対的なものではないので、迷っている人は先輩や顧問の先生に相談しよう！



A ～ E の診断が出たら、そのパートの詳細ページへ GO !!

A : ボーカル

3 ページ

B : ギター

5 ページ

C : ベース

7 ページ

D : ドラム

9 ページ

E : キーボード

11 ページ



楽器の魅力と役割を知ろう！

ボーカル

ボーカリストはバンドの顔です。注目も多く最も華やかなパートだと言えるでしょう。楽器が弾けなくても譜面が読めなくてもすぐに取り組めることがメリットの1つですが、バンドの顔としての役割は重く、魅力あるボーカリストになることは簡単ではありません。

バンドも楽曲もボーカルが中心

フロントマンであるボーカリストはとても華やかです。ボーカリストは楽曲の歌詞を肉声で伝えるため、ほとんどの人が音楽をボーカル中心に聴いて、ライブでは一番ボーカリストを見ています。そのため、基本的に楽曲は歌のメロディを活かすためにアレンジされ、バンドもボーカリストを活かすように演奏します。また、歌うだけではなく、ライブの曲間にしゃべったり、インタビューなどで何かコメントすることもボーカリストの役目です。中には、純

粋に「歌うことが好き」という理由でボーカルパートを選ぶ人もいますが、適性としては「注目されることがイヤじゃない」ことが重要なポイントかもしれません。

ボーカルはバンドアレンジの決定権を握っているパートです。楽曲には「キー（調）」があり、既存の曲をコピーする時もオリジナル曲を作る時も、キーをボーカリストの声域に合わせるのが基本です。また、バンド練習時の音量もボーカルがよく聴こえるようにセッティングしたり、テンポやアンサンブルのダイナミクスなどをボーカリストの歌いやすさに合わせて決定してい

ます。自分が「どう歌いたいのか」をしっかりと持てるボーカリストを目指しましょう。

華やかさのための努力

そもそも、人前で歌うことはかなり勇気が必要です。また、歌詞や楽曲のメッセージを歌や言葉で人に伝えることは簡単なことではありません。華やかさの裏には地道な練習とセンスを磨く努力が必要です。

「体が楽器」であるボーカリストは、呼吸法や発声などを体や口腔の使い方でできるようにならなければいけませ

ん。また、音程の調整を声でやらなければいけないので、他の楽器よりもピッチ（音程）やスケール（音階）の練習がたくさん必要となります。実は、ボーカリストが最も基礎練習をしなければいけないパートだともいえます。そういった意味では、楽器の演奏も歌のレベル・アップにつながるので、ぜひ挑戦してみてください。

きちんとした発声で歌ったりステージパフォーマンスをするには意外と体

力を使います。腹筋や背筋運動、ストレッチなど、歌に伴う体力維持が常に必要です。また、体調管理も同様で、感染症や風邪などにはじまり、寝不足、花粉など、普段から喉と健康に気をつける生活が要求されます。

ボーカリストに必要なこと

ボーカリストに最も大事なことは「感情表現」です。歌や体全身で豊かな感

情表現ができるようになるためには、豊かな感情を持った人間にならなければいけません。

人間として様々な経験をして、たくさんの感情を知ることが重要です。歌詞の創作や表現には国語の勉強も大切ですが、友達と遊びに行ったり恋愛感情を持つことも大事なことです。旅行や読書、映画鑑賞、社会のニュースなどを含め、様々なことに興味を持ちましょう。

A

ボーカルってどんなパート？

- ・バンドで最も注目される花形
- ・楽器を弾きながら歌う人も多い
- ・「歌詞」を言葉で直接伝える
- ・セッティングが楽
- ・体調がリアルに反映される
- ・音楽理論に疎くてもできる
- ・練習方法が分かりにくい
- ・練習場所に困る
- ・合奏の方向性を決められるリーダー・シップが必要



◀ギターやピアノを弾きながら歌うスタイルも多い



楽器の魅力と役割を知ろう！

ギター

歪んだサウンドにギターソロ、ステージの上でギターをかき鳴らす姿は、まさに「ロック」な感じがします。最近では、ハデなプレイよりもバックイングに徹するギタリストも多くなってきましたが、楽曲のサウンドの方向性を決めているのは、やはりギターです。

エレキ・ギター＝バンド

エレキギターは、電気・電子技術と共に発展してきたポピュラーミュージックの象徴でもあります。エレキギター＝バンドだといっても過言ではありません。現代ではギターパートの役割も様々に変化しています。逆に、ギターでしかできないことがより求められるようになってきました。

ギタリストは、フロントマンとしてステージでの魅せ方も重要です。カッコ良くて繊細、それがギタリストの魅力です。

主役にも脇役にもなる

ギターは他の楽器と同様、伴奏（バックイング）がメインとなりますが、その音色やフレーズからバンド・サウンドの方向性を決めるパートです。クリーンなサウンドから歪ませた音、エフェクトをかけた音など、どんな音色でギターを鳴らすのかによって楽曲のイメージを決定づけていきます。

ギターはコード（和音）をかき鳴らしたり単音でリフやソロを弾いたり、演奏のアプローチも様々です。単にボーカルを引き立てるための脇役に徹する

だけではなく、ここぞ！という時には一気に主役に踊り出ます。押し引きがきちんとわかり空気が読める存在が理想のギタリストは、技術以外に音楽的な知識やセンスの向上も重要になってきます。

バンドサウンドを決定づけるギタリストには、ギターの音色にもこだわりが必要です。音作りにはギター本体、ギターアンプ、エフェクターといった機材の知識が不可欠で、サウンドメイクに悩んでしまう場合も多いようです。しかし、対応策としてはやはりたくさんの音楽を聴いて、それぞれの役割や効果を体験していくしかありません。

常に研究熱心でなければいけません、好きなサウンドが出せるようになるとギターがどんどん好きになっていくでしょう。

ギタリストに必要なこと

ギタリストは、「コード」や「スケール（音階）」といった音楽知識を身につけ、実践できるようになればなりません。一口に「コード弾き」といって

も何種類も押さえ方やアプローチ、ポジションがあるので、覚えることはたくさんあります。また、チョーキングやハンマリング、ビブラート、スライド、ミュート…といったエレキギターならではの奏法や、ボリュームペダル、ワウペダルを駆使した演奏など、ギターでの表現力をアップさせるために習得すべきことが多いパートでもあります。しかし、エレキギターの可能性は奥深く、やればやるほどその魅力にハマる

はずです。

とはいえ、例えシンプルなフレーズの楽曲だとしても、音楽的、技術的、機材的なことを無視できないのもエレキギターという楽器の宿命です。カッコ良く見える裏ではたくさんの個人練習や研究が必要になってきます。「勉強なんかしてない」と言いながら良い点を取ってしまう…。そんな孤高のカッコ良さやマルチな才能がギタリストの資質かもしれません。

B

ギターってどんなパート？

- ・バンドサウンドのカラーを決める
- ・音楽理論を覚えるとより楽しい
- ・いろいろなアプローチができて楽しい
- ・コード弾き、単音弾き…と練習が大変
- ・大きな音で弾くと気持ち良い
- ・音色作りが難しい
- ・楽器や機材を持ち運ばないといけない
- ・ちょっとしたロック・スター感がある
- ・自宅でたくさん練習できる
- ・歌いながら弾く人も多い



◀アコースティックギターにも挑戦してみよう



楽器の魅力と役割を知ろう！

ベース

ベースは、ギターより弦の数が少なく、ボディが大きいことが特徴です。「ギターより簡単そう」「目立たなそう」と控えめな印象ですが、実はアンサンブルの中でとても重要なパートを担っています。バンドの潤滑油的な存在の実力者、それがベーシストの真の姿です。

バンドの頼れる存在

古今東西、派手なプレイをするベーシストも少なくありませんが、アンサンブル上でのベースの本来の役割は「バンドのボトムを支える」ことです。それができた上でなければ、派手なプレイやパフォーマンスはアンサンブルを壊してしまうことにつながります。しかし、クールにバンドの土台を支える縁の下の力持ちに徹することもできれば目立つこともできる…。そんな2面性がベースの魅力かもしれません。

ベースで目立ちたい！と思っている

人は別として、ベースは自分が求めなければボーカルやギターのように派手に振る舞わなくてもよく、リズムやテンポを決めるドラムのような重い責任もありません。しかも、基本的に「単音弾き」なので、他の楽器より簡単そうに思えるかもしれません。そんな少し後ろ向きなイメージからベースを始めても良いと思いますが、きっと続けているうちにベースの楽しさと奥深さ、アンサンブルにとっての重要性、楽曲の中での役割りなど、難しさとやりがいが見つくと思います。大きな懐でバンド全体を包み、いつもどっしりと構えているアニキ、アネゴ肌な頼れる

存在を目指しましょう。

クールな裏に潜む大変さ

クールな寡黙さが男らしく、大きなベースを抱えて低音をドシッと出している女子の姿もかっこ良くもありカワイイ感じがします。控えめな立ち位置ににいるということもあってか、男子女子問わず人気が高いのも頷けます。しかし、ギターに比べて弦が太くフレットの間隔が広いベースは少し握力が必要で、手が小さかったり握力の弱い人はしっかりと指を開く練習と弦を弾く力加減を身につけるまで少し大変かも

しません。

ベースは比較的機材が少なく、セッティングが楽なことも好条件の1つですが、最大の難点はやはり「重い」ということです。慣れてくればそんなに苦ではなくなりますが、始めのうちはズシッと肩に重みを感じるかもしれません。ストラップを太めのものにするとか、弾かない時は座る…といった方法で対処しましょう。

ベーシストに必要なこと

ベースはコード（和音）のルート（根音）を支えながら、ボーカルのカウンターメロディを演奏します。また、ドラムと一緒にリズムを作って楽曲の土台を作る役目もあります。音楽の三要素である「メロディ」「リズム」「ハーモニー」のすべての基礎を担いながら、リズム隊と上モノの橋渡し役でもある

ベースはバンドに欠かせないパートです。地味に見えて、アンサンブル上、実はとても大きな責任があり、どのパートよりも音楽的に楽曲を理解する能力が必要です。ベーシストのセンスが良いと、そのバンドは良いセンスの演奏になります。音楽的知識とセンスを身につけるために、技術的な練習だけではなく、たくさん音楽を聴いたり研究をしていってください。

C

ベースってどんなパート？

- ・ 低音でバンドサウンドを支える大黒柱
- ・ 和音にもグルーブにも関わる
- ・ 単音弾きが主でギターより簡単
- ・ 基本的に楽器自体が重い
- ・ 自宅でたくさん練習できる
- ・ 実は意外と音楽理論が必要
- ・ 目立たないのにミスが際立つ
- ・ ギターよりも握力がある
- ・ サウンドメイクがシンプル
- ・ やり方次第で思いきり目立てる



◀指、ピック、スラップ。様々な奏法に挑戦しよう



楽器の魅力と役割を知ろう！

ドラム

バンドで唯一のアコースティック楽器であるドラムは、運搬やセッティングも大変です。しかし、そのサウンドや見た目だけではなく、様々な面でバンドアンサンブルの土台を決める重要なパートです。頼れる「影のリーダー」として存在するのがバンドのドラマーです。

ドラムはバンドの屋台骨

ドラムセットは大小様々なタイコとシンバル、そしてスタンド類などで組み立てられています。機材に囲まれたドラムセットはハデで目立つので、少し叩けるようになっただけでカッコ良く見えます。また、バンドの中で唯一電氣を使わない楽器なので、電氣・機械関係に詳しくなくても大丈夫です。さらに、コード進行やスケールといった音楽理論を他のパートほど理解していなくても演奏することができます。

しかし、ドラマーは合奏の屋台骨と

なるパートです。子亀を乗せた親亀のように、「ドラムがコケたら皆コケた」なんてことにならないように、メンバーから頼られる存在でなければなりません。演奏のテンポやリズムがよれたりフレーズが乱れると、他のメンバーが合わせづらく、観客にもすぐにわかってしまいます。なかなかリスキーなパートですが、「自分がバンドを支えているんだ」という意識が芽生えれば、とてもやりがいのあるパートです。

備品ドラムの利点と難点

基本的に、ドラムセットは学校の備

品として揃っていると思うので、学校に持参するものは「スティック」だけなのもメリットの1つといえます。しかし、数人のドラマーで同じ機材を使い回すということは、自分が使用するたびに自分用にセッティングし直さなければならないということでもあります。新入部員にとっては構造や組み立て方などを知る良い機会ですが、自分の好きなサウンドを出すためには、スネアドラムやペダルなどを持参することが有効です。慣れてきたら購入を考えましょう。

ドラムはスティックとペダルを使って演奏する楽器で、直接手を触れて演

奏するわけではありません。従って、備品や機材に関する知識と扱い方の上達がドラム演奏の上達につながります。しかし、自宅でドラムを叩ける人はほとんどいないと思います。実際にドラムセットを使って個人練習をすることがなかなかできないのがドラマーの悩みの種です。両手両足を使って演奏するドラムは楽器を使って体の動かし方を繰り返し練習する必要がありますが、部活動の時間以外にどうしたら有効な

練習ができるのかをそれぞれで考える必要があります。

ドラマーに必要なこと

ドラマーにとって最も必要なことは「全体を見る力」です。アンサンブル上、演奏の土台となるドラムはボーカルやギターといったフロントマンをより良く聴かせる（魅せる）ために演奏することが本道です。テンポ、音量、ダイ

ナミクス、グルーブ…を支配するドラムは、「ドラマーが上手なバンドは上手に聴こえる」といわれるほど、その責任は軽くありません。

メンバーや演奏を冷静に俯瞰で見、バンド演奏をまとめられるようになるには、音楽的な知識や感情表現などを他のパートと同じぐらい理解する必要があります。

D

ドラムってどんなパート？

- ・アンサンブルの土台を担う存在
- ・手足のコンビネーションが難しい
- ・派手でカッコイイ
- ・持参する楽器が少なくても大丈夫
- ・練習場所に困る
- ・音楽理論や電気に疎くてもできる
- ・他のパートよりミスが目立つ
- ・セッティングや調整が毎回大変
- ・指揮者のようなリーダーシップ
- ・存在感がハンパない



◀電子ドラムも有効活用すると可能性が広がる



楽器の魅力と役割を知ろう！

キーボード

今や花形のキーボード。バラードでのしっとりとしたピアノ演奏から、シンセサイザーによる足りないピースをはめ込んでいくような「ちょい足し」や「トッピング」まで、バンドアンサンブルの中ではキーボードパートが持つ役割や比重はかなり多くなっています。

バックイングと装飾

現代のポピュラーミュージックではキーボーディストがいるかないかでアンサンブルアレンジの幅に大きな違いが出ています。かつては高価で重かった機材も今では安価＆進歩して取り組みやすくなり、キーボードとパソコンを同期させるなど可能性はどんどん広がっています。今後さらに活躍が期待される、最も注目度の高いパートといえるでしょう。

キーボードパートの役割は様々なことがあります。1つは主にピアノや

オルガンなどの音色による「バックイング」です。バラードでボーカルと2人で演奏したり、楽曲の中でギターのようにコード弾きをするケースです。もう1つは、ほぼ完成されたバンドの演奏にいろいろな音色で「装飾を加える」ことです。ストリングス系、ブラス系、パット系、打楽器系など、様々な音色を使って楽曲に最終的な彩りを加えます。他にも、シンセリードでメロディを弾く、効果音などを出すなど、役割りは多種多様です。

機材は自分のものを用意しよう

キーボーディストに必要な機材は、それぞれ学校に備品としてどれだけのものが揃っているかによって変わってきます。しかし、理想はギタリストやベーシストと同じように自分でキーボードを用意することです。自宅にマイキーボードがあれば、家で個人練習もできるし、音色のカスタマイズも事前に行えるので、バンド練習のたびに音色を選ぶといった時間が短縮できます。

あるいは、機種によってはデータを持ち運べる便利な機能があるので、音色を保存したUSBメモリだけ持参すれば、いつでも自分でカスタマイズ

した音色で演奏することができます。メーカーや機種が違ってもまったく同じ音にはなりません、合同演奏会などで他校へ出向く時や大会などの時でも、いつもと似た音色で演奏することが可能です。

キーボーディストに必要なこと

キーボーディストには、「音楽的な知識」と「機材的な知識」が必要です。

クラシックではほとんど使わない「コードネーム」を中心に音楽を作ったり、少しややこしい機材操作や専門用語の理解が必要なので、ピアノ経験者も新たにキーボードを始める人もスタートラインは一緒です。もちろん、経験者は演奏に慣れているという点でアドバンテージがありますが、ポピュラーミュージックを演奏する上では役割や奏法に違いがあるので、始めは戸惑うこともあるかもしれません。先輩

によく話をきいて1つずつ覚えていきましょう。

優れたキーボーディストになるためには、数百という音色がプリセットされたシンセサイザーから、それらをエディットできる「サウンドメイク」への興味と知識を持つことも大切です。様々な楽器の特性、他の楽器との混ざり具合などを判断する耳、音楽を創作するアレンジ&プロデュース・センスを磨きましょう。

E

キーボードってどんなパート？

- ・ 準主役になったり脇役になったりする
- ・ いろいろなアプローチができて楽しい
- ・ 技術的にはピアノ経験者が有利
- ・ 自宅に機材がないと練習できない
- ・ 基本的な音楽知識とセンスが重要
- ・ 音楽理論や読譜に強いと有利
- ・ 機材の使い方が難しい
- ・ コード弾き、単音弾き…と練習が大変
- ・ 音色作りが難しい
- ・ パソコン関係が好きだとより楽しい



◀大変だけど、ボーカル&キーボードも人気！